

令和 7 年 10 月 9 日

保護者様

市川市立第二中学校
校長 藤井 義康

学校評価の結果について

秋冷の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃より本校の教育活動につきましては、ご理解、ご協力をいただきまして、ありがとうございます。
さて、令和 7 年 6 月にご協力いただきました学校評価の結果を、以下の通りご報告申し上げます。

学校では今回の結果を踏まえ、教育活動や教育環境の充実に努めてまいりますので、今後も家庭・学校・地域の連携のもと、ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

1 結果の項目について

学校評価の結果につきましては、「市内共通項目」と「学校独自項目」に分けています。

2 評価の結果について

(1) 市内共通の質問

- ・保護者及び生徒の結果について、本校の令和 6 年度の後期、市内の令和 7 年度の前期と比較できるようにグラフ化しています。
- ・市内共通の質問は、質問の内容が保護者・生徒ともほぼ変わらないため、保護者と生徒の結果が比較できるよう掲載しました。

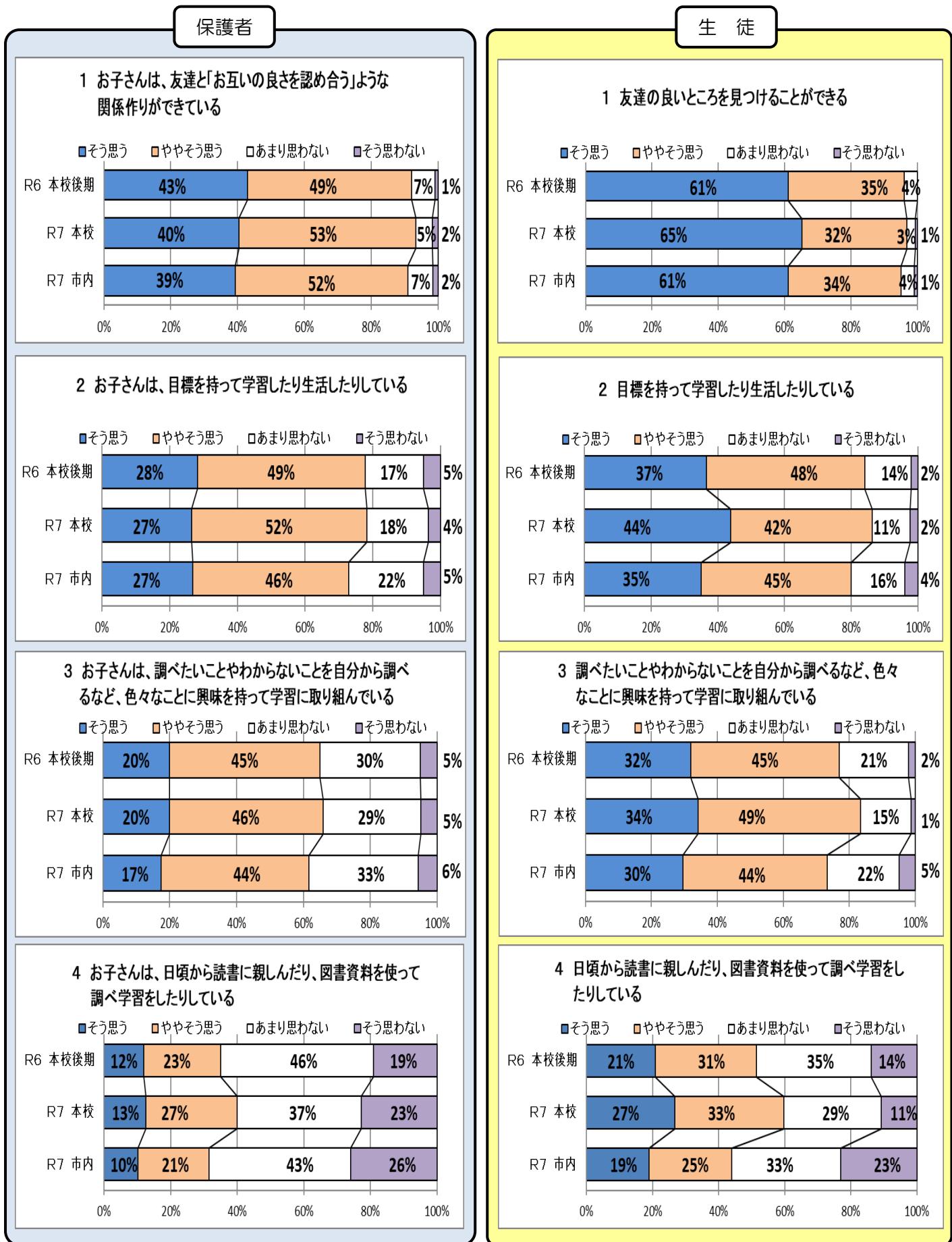
(2) 本校独自の質問

- ・令和 6 年度後期の学校評価と比較できるようにグラフ化しています。
- ・本校独自の取組（単元テスト等）につきましては、保護者と生徒に結果が比較できるよう掲載しました。

3 学校運営協議会の意見について

- 学校運営協議会の意見は、9 月 24 日（木）開催の第 2 回学校運営協議会において、ご協議いただいた内容を記載しています。

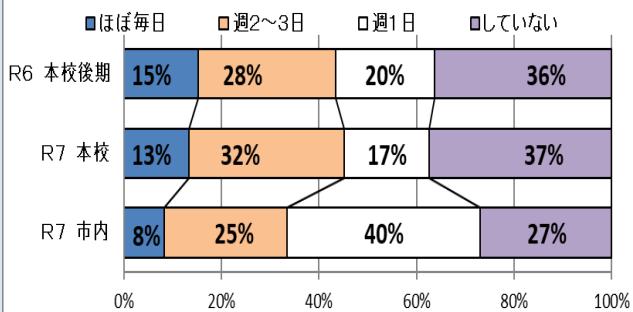
1 市内共通項目アンケート結果



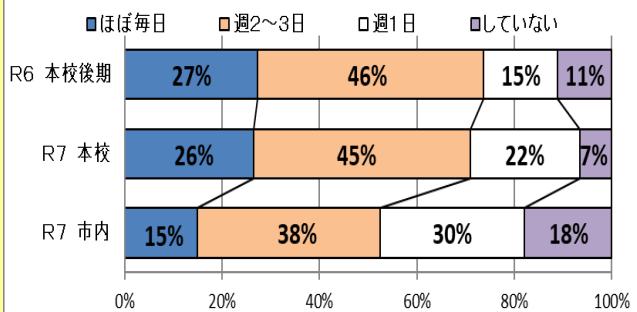
保護者

生徒

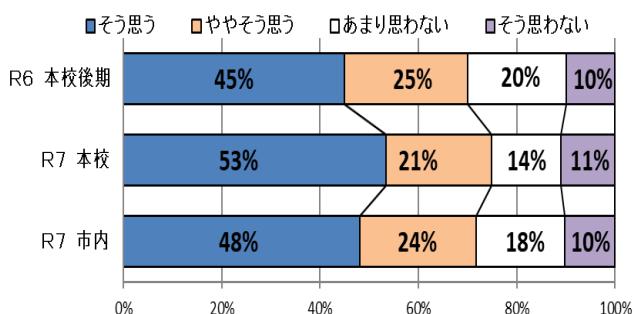
5 お子さんは、毎日の学習でタブレットを活用している



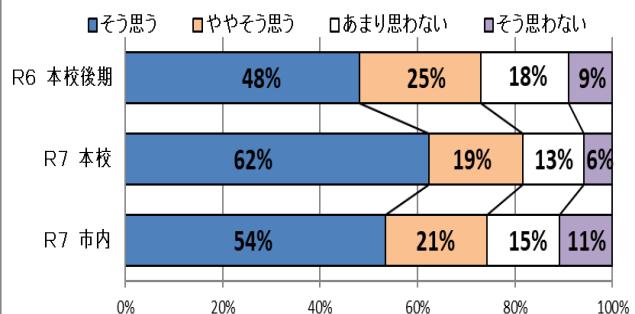
5 日々の学習でタブレットを活用している



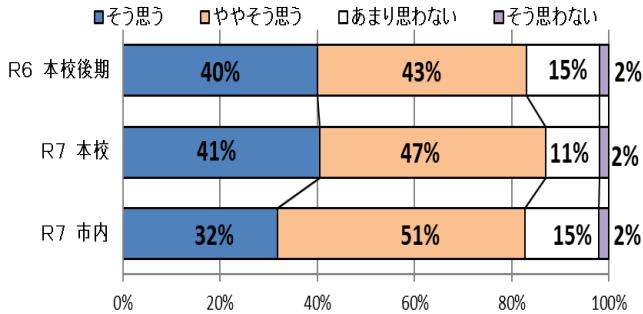
6 お子さんは、運動やスポーツに親しんでいる



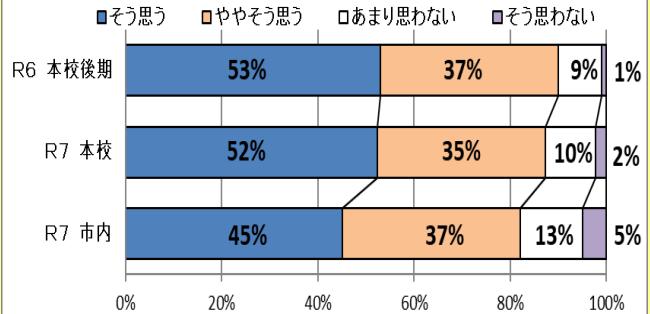
6 日頃から運動やスポーツに親しんでいる



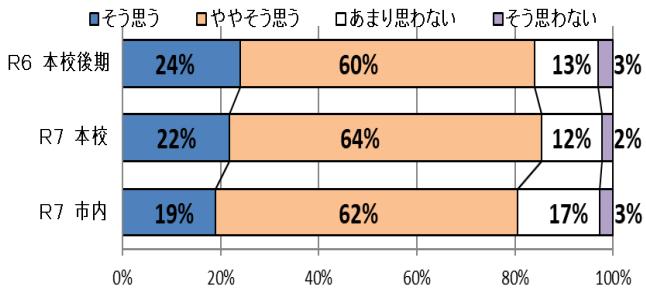
7 お子さんは、望ましい食習慣が身についている



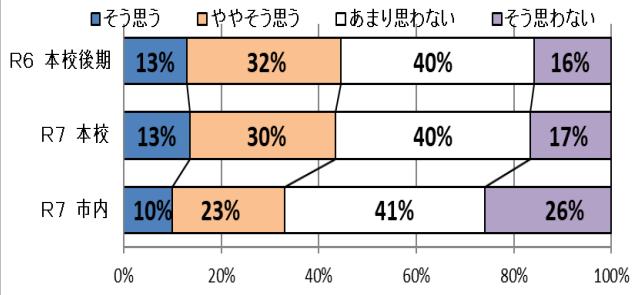
7 給食では、栄養やマナーなどを意識して食べている



8 学校は保護者や地域の方々とともに、子どもを育てる取組を進めている



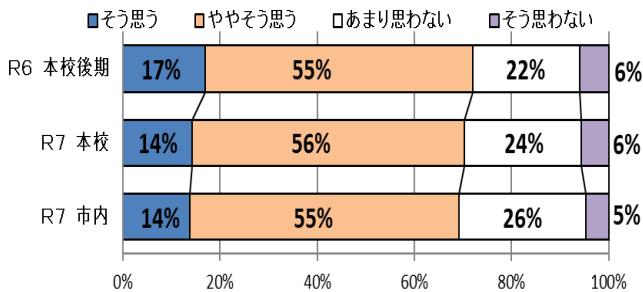
8 学校の活動で、地域の方たちと共に学ぶ機会がある



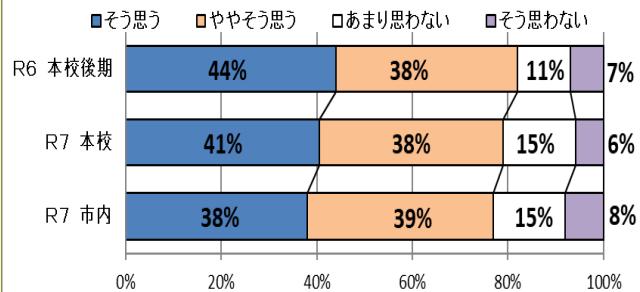
保護者

生徒

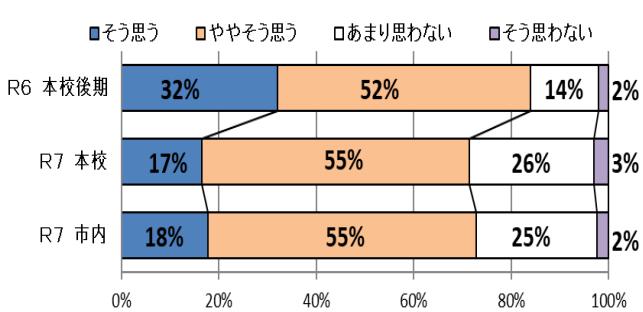
9 学校には、一人一人のニーズに対応したきめ細かな支援体制が整っている



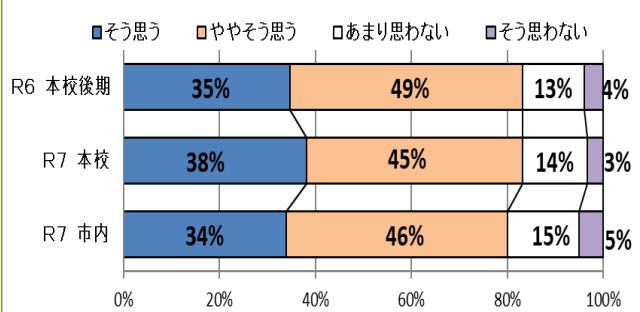
9 困ったことがあった時に相談できる先生がいる



10 学校は体験活動を取り入れている



10 学校の活動では、体験(見る、聞く、触れる)や交流が取り入れられている



1 保護者アンケートの結果について

(1) 令和6年度後期と令和7年度前期の本校保護者の学校評価の比較

例年、肯定的な評価（そう思う、ややそう思う）を高い割合でいただいております。本校教育へのご理解に感謝申し上げます。肯定的な評価の割合につきましては、昨年度の後期と比較しても、ほとんど変化は見られません。

しかし、質問10の「学校は体験活動を取り入れている」に関しまして、昨年度後期の評価よりも肯定的な評価は低下が見られました。（R6後期：84% R7前期：72%）

1学期は、保護者の方に見えるような体験活動は確かに少なかったと考えます。9月以降は教科や行事等を通して、保護者の方が実感できる体験学習を取り入れながら教育活動を進めてまいります。

(2) 令和7年度前期の本校保護者と市内中学校保護者との比較

肯定的な評価につきましては、ほとんどの項目で市内を上回っているか同等の結果となっています。

特に質問3「わからないことを自分から調べる、色々なことに興味を持って学習に取り組んでいる」（本校：66% 市内：61%）、質問4「読書に親しむ、図書資料を使って調べ学習をしている」（本校：40% 市内31%）、質問5「毎日の学習でタブレットを活用している」（本校：45% 市内：33%）となっており、市内の平均を大きく上回っていることから、主体的に学ぶ生徒の育成を目指している本校の取組が、少しづつではありますが、成果として表れてきていると感じました。

本校の保護者の評価としてはまだ満足な結果ではありませんが、引き続き、探究的な学習や図書館教育を充実させ、自ら学ぶ力を育てる取組を充実させてまいります。

2 生徒アンケートの結果について

(1) 令和6年度後期と令和7年度前期の本校生徒の学校評価の比較

昨年度と比較して、肯定的評価はほぼ同等の結果となっています。今年度の大きな特徴としては、質問6「日頃から運動やスポーツに親しんでいる」の項目で、62%の生徒が「そう思う」と回答したことです。体育の授業や昼休みを見ても、楽しく体を動かしている生徒は非常に多くいます。これから寒い季節を迎えるが、自分から積極的に運動に親しむことができるよう働きかけてまいります。

前期の学校評価アンケートは、入学してきた1年生や、新たな決意をもって進級した2・3年生が、1学期始まってすぐのアンケートに答えます。この気持ちを失わせることなく、「そう思う」と生徒が素直に回答できるよう、学校体制を整え、日々の学校教育活動が生徒にとって充実したものとなるよう取組んでまいります。

(2) 令和7年度前期の本校生徒と市内中学生との比較

すべての質問項目に関して、肯定的評価が市内の平均を上回っています。特に顕著なのは、保護者の(2)にも書かせていただいた3項目で、質問3「わからないことを自分から調べる、色々なことに興味を持って学習に取り組んでいる」(本校: 83% 市内: 74%)、質問4「読書に親しむ、図書資料を使って調べ学習をしている」(本校: 60% 市内: 44%)、質問5「毎日の学習でタブレットを活用している」(本校: 71% 市内: 53%)となっています。

本校では、朝読書の継続、学校司書と連携を図った図書室の活用（総合的な学習が主ですが、今後は教科でも展開する予定です）、教職員の授業におけるICT機器の積極的な活用を通して、生徒の主体的に学びに向かう力の育成を大切にしています。今後もこの取組を充実、発展させてまいります。

3 令和7年度の保護者アンケートと生徒アンケートの比較

多少、質問の言い回しが違うところはありますが、ほぼ同じような質問のため、保護者と生徒の結果を比較できるように並べて掲載させていただきました。

保護者の方の見方と、生徒自身の自己評価には違いがあるのは当然ですが、家庭では見えない項目について肯定的評価が保護者・生徒で大きく違っています。

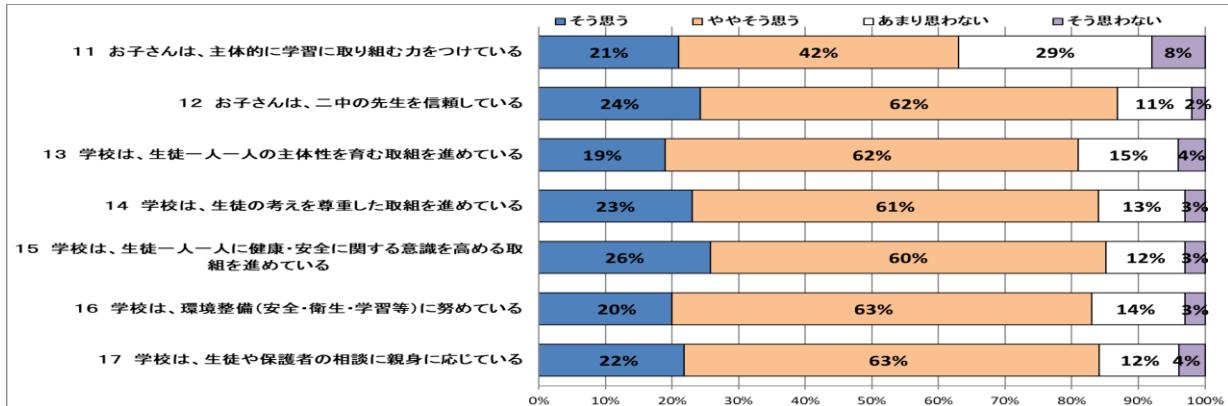
質問3「わからないことを自分から調べる、色々なことに興味を持って学習に取り組んでいる」(保護者: 66% 生徒: 83%)、質問4「読書に親しむ、図書資料を使って調べ学習をしている」(保護者: 40% 生徒: 60%)、質問5「毎日の学習でタブレットを活用している」(保護者: 45% 生徒: 71%)、質問6「日頃から運動やスポーツに親しんでいる」(保護者: 74% 生徒: 81%)となっています。

これは、保護者の方々が日頃見ているご家庭での姿と、お子様が学校で見せている姿に違いがあるため、生徒の立場では「学校では、分からることは自分で調べている」「学校では、毎日タブレットを使っている」という回答になるためと考えられます。

本校生徒は、一人一人が自分のできることに一生懸命に取り組み、充実した中学校生活を送ろうとしている生徒が非常に多くいます。その意欲を伸ばすことができるよう、学校の体制や教職員の意識の向上を図るとともに、ご家庭と学校が連携を図り、一人一人を大切にする教育活動が展開できるよう努めてまいります。

2 学校独自項目アンケート結果

(1) 保護者アンケート



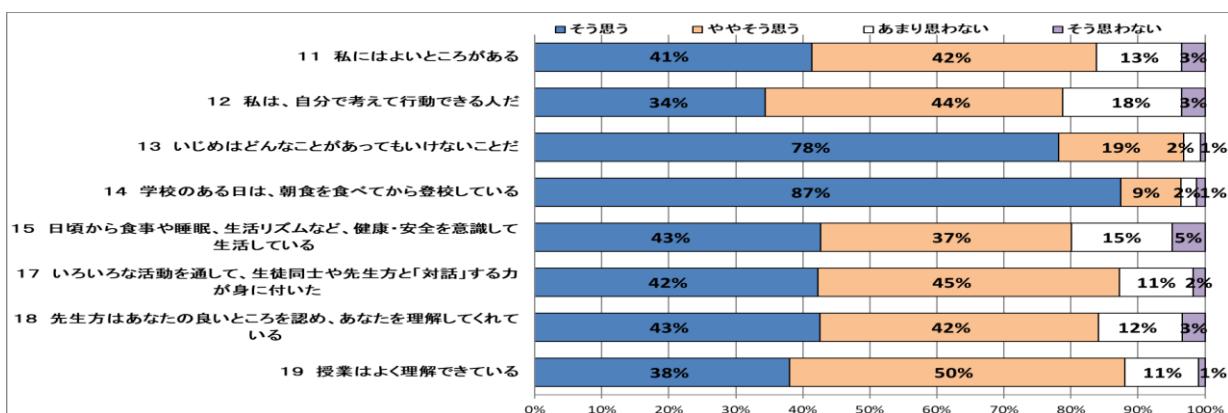
質問11「お子さんは主体的に学習に取り組む力をつけている」(肯定的回答: 63%)の結果につきましては、昨年度も同程度の60%を超えるくらいの数値となっています。保護者の方から見て、家庭学習の定着がなかなか見られないことがこの評価につながっていると考えられます。

「主体的に学ぶ子どもの育成」、「生徒の主体的な活動の充実」を掲げる本校ですので、それをどのように家庭での生活、学校外での生活につなげていくか考える必要があります。「学校だけで」できればいいわけではありませんので、今後の課題として考えてまいりたいと思います。

質問11～質問17につきましては、主に「信頼される学校」としての評価項目が多く、ほとんどの項目で80%以上の肯定的な評価をいただいております。しかし、「あまり思わない、そう思わない」と回答している保護者の方が一定数いる以上、学習環境の充実や健康教育、安全教育、教育相談等に課題があると考えられます。

この質問項目は、二中の教職員全体で取組んでいかなければならぬものであり、一人一人の教職員の指導や意識が向上していかなければ、なかなか理解が得られません。今後も、保護者の方から信頼される二中の構築に向けて取組んでまいります。

(2) 生徒アンケート



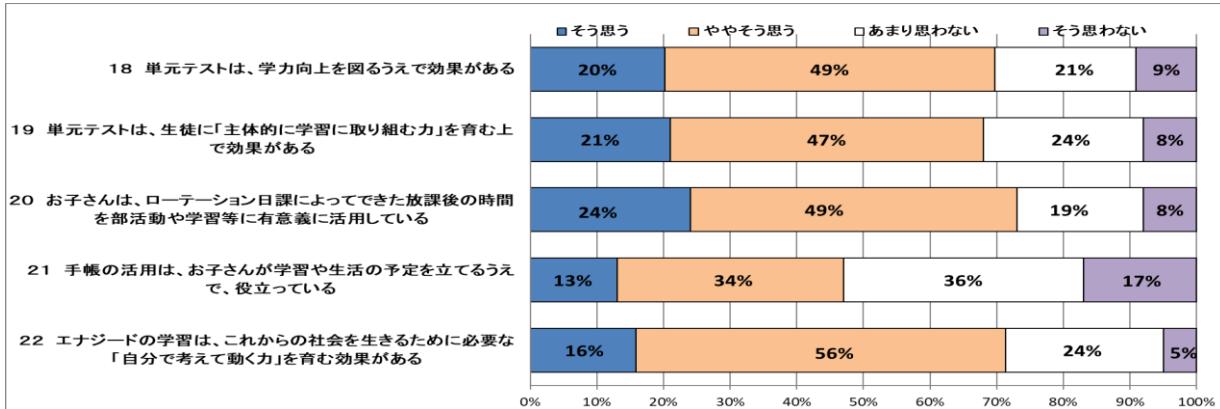
生徒アンケートの項目は、お子様方の自己肯定感、主体性、健康安全、教師への信頼度を測る質問となっています。どの質問項目も学校として大切なのですが、やはり重点としたい項目は、質問11「私にはよいところがある」(肯定的回答: 83%)です。

この自己肯定感は、学校教育活動において授業や委員会、クラブ活動で培えるほか、教職員の言動によっても大きく左右します。今後もお子様の自己肯定感、自己有用感の向上を最重要課題の一つとして捉え、取組んでまいります。

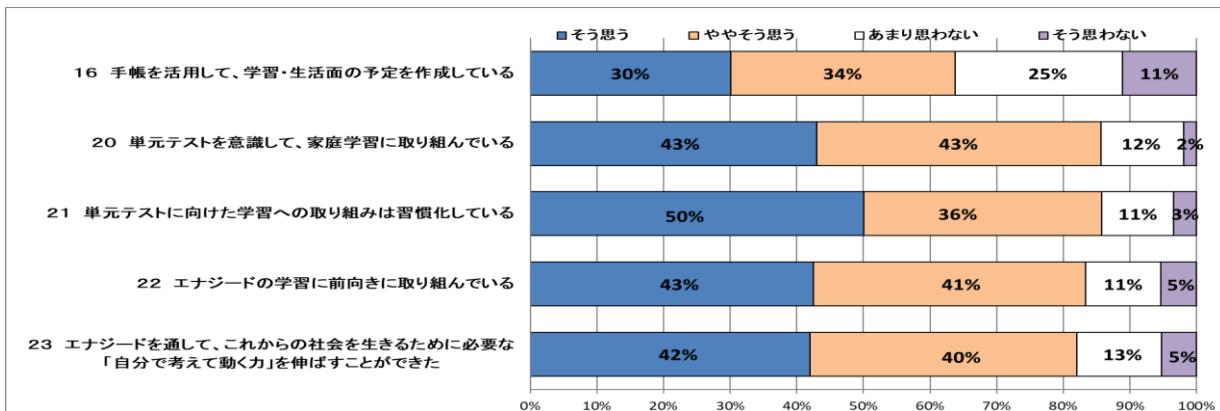
学校評価の場合、肯定的な回答に目が行きがちですが、例えば質問13「いじめはどんなことがあってもいい」、質問14「学校のある日には朝食を食べて登校している」など、一定数の「あまり思わない、そう思わない」の評価に着目することが必要と考えます。ここに着目することで学校経営の改善にもつながると思いますので、教職員で共通理解を測りながら進めてまいります。

3 学校独自項目アンケート結果（二中独自の取組に対する評価）

【保護者】



【生徒】



まず、単元テストについてです。単元テストにつきましては、後で記載しますが、様々なご意見をいただいております。

単元テストに関する保護者アンケートの質問18「単元テストは学力向上を図る上で効果がある」と質問19「単元テストは主体的に取り組む力を育む上で効果がある」の肯定的評価は68%～69%となっています。これは一定数の理解は得ているものの、改善すべき課題があると受け止めており、今後の課題として捉えております。

また、生徒アンケートの質問20「単元テストを意識して家庭学習に取り組んでいる」、質問21「単元テストに向けた学習への取り組みは習慣化している」の回答は90%近い肯定的評価となっています。生徒たちは「単元テスト」しか経験がないため、肯定的な評価は高くなりますが、「単元テスト」を通して子どもたちの主体的な学びに繋げることが大切であると考えます。

その他、本校独自のフォーサイト手帳、ローテーション日課、エナジードの学習につきましても様々なご意見をいただいております。

保護者の方々の肯定的評価が高くない理由として、二中独自の取組が保護者には見えにくいこと（行事などでは子どもの活動は見えますが、二中独自の取組については子どもの学びの姿が見えにくい）、学校の説明が不十分である、1年生の保護者の方は学校評価アンケートの実施が6月だったため、学校の取組が見えなかつたことなどが上げられます。

この評価結果及びご意見を踏まえた上で、本校独自の取組の改善点を明らかにし、今後の方向性を検討してまいります。

4 自由記述意見

○教科指導等に関すること

<主なご意見>

- ・最近授業内容が分かりにくくなつた教科があると子どもが感じているようです。授業の目的や意図が明確でないまま始まってしまうことがあり、理解しにくいようです。授業の目的をしっかりと共有してもらえると、より学びが深まるのではないかと思います。
- ・子供が信頼できる大人でなければ聞く耳を持たないと思う。大人も同じで上から目線の教育ではやる気も起きないし成果も出ない。成績を上げようとせず科目好きになるか授業を楽しくするかどちらかに重点を置いてほしい。
- ・今年度の授業の進め方と評価の基準に疑問を感じる教科があります。積み重ねが大事な教科なので、苦手な子がさらに苦手意識を持たないような授業にしてください。
- ・ワークですが、去年のワークの方が繰り返し問題が多くて、ワーク一冊をやるだけできちんと単語を覚えることができました。繰り返ししなくても覚えられる生徒もいるかもしれません、ワークも1種類ではなくてレベルに合わせて選べるとありがたいです。
- ・ディベート学習を定期的に実施するはどうでしょうか。論理的な思考力や表現力、多角的な視点、傾聴力、積極的に考え学ぶ力が身につくと思います。小学校ではやっていました。

<学校より>

学校の教師は、わかりやすい授業を開催し、生徒の「もっと知りたい」「もっと学びたい」など、知的好奇心を高め、主体的に学ぶ意欲と態度を養わなければなりません。授業の進め方や評価基準等、教科内ではもちろんですが、学校全体といたしましても確認していく必要があります。今後も生徒が意欲的に授業に取組めるよう、教師の授業力向上に努めてまいります。

○単元テスト、実力テストに関すること

<主なご意見>

- ・1年生になったばかりで単元テストの長所・短所がまだわからず、これからに期待している。
- ・単元テストは早期に理解できていない箇所を認識するのには役立つと思いますが、我が子を見ているとテスト日の意識が低く勉強もしていません。テスト日数日前は部活も休みにしていただけると助かります。(単元テスト前日は休みにしてほしいという同様の意見あり)
- ・単元テストの結果が保護者には分かりづらい。本人に聞けば良いとは思うが、出来れば面接以外でも定期的に知る機会が欲しい。(単元テストでは、学年順位も出ない、偏差値も平均点も出ないので、結局どの程度できているのかわからない、単元テストでは本人の学力が測れない、単元テストを今後も進めるのであれば、もっと成績が分かりやすい方法を提示してほしいなど、結果の伝達方法についてのご意見複数あり)
- ・生徒の自主性を高めると言って、実際は塾や家庭に丸投げだと思っている。各自塾等で忙しいだろうからと宿題も出さず長期休みの課題も無い。特に単元テストは早々に止めるべき。100点満点にすら調整しない手抜きで、子供はどれくらい出来たのかの実感もわからない。終わったものは終わった事で済ませてしまいがちになり、長期範囲の勉強習慣がつかない者が3年分の範囲を勉強出来るのは思えない。

- ・生徒をよく見て指導して下さる担任の先生や熱心な部活動の顧問の先生など恵まれた環境であると感謝しております。単元テストは範囲が短く、授業で習ったばかりのため、テスト勉強をほとんどしていないなくても、まあまあの点が取れてしまう。単元テストによって学習習慣が身につくか、については否としか思えないです。(同様に、単元テストでは範囲が短く学習習慣が身につかない、知識が身についているか疑問、単元テストは広範囲を対象とした受験に向けた取組が身につかないのではなど、単元テストの範囲や子どもの学習習慣等に関する同様のご意見複数あり)
- ・高校進学後大学受験を見据え範囲の広いテストに対応する力、集中力を身につける為に、中間期末テストに戻して頂きたい。
- ・他の学校同様、定期テストにして下さい。そして生徒の主体性と言いながら授業をしないのなら、学校へ通わせる意味がありません。授業をして下さい。多くの方がこのような意見なのに、単元テストを強行するのは生徒や保護者の声に向き合っていないと思います。子供がかわいそう。
- ・高校受験する事が前提の中學ならばもっと学力をあげる事をすべき。単元テストとローテーション日課は(定期テスト・通常時間割に比べ日程通知・テスト範囲通知の手間が増大し、テスト実施と採点の頻度が増加し、(現在の正確な状況は把握してございませんがおそらく) テスト当日の部活ありの点で) 先生方のご負担とのバランスを心配しています。継続実施の場合、先生方がよい授業やご指導が可能な合計業務量の範囲内で制度設計いただきたくお願い申し上げます。
- ・年数回行われる実力テストだが、すぐに答えがもらえない、と聞いています。すぐに答えを知る事で、学力向上に繋がるのでは、と思います。

<学校より>

単元テストにつきましては、毎回多くのご意見をいただいています。これまで、一つ一つに回答する形で対応し、単元テストへの理解も高まってきていると思います。しかし、改善しなければならない課題もあり現在の方法が完成形とは思っておりません。現在の中学校・高等学校のテストは定期テストが主流なので、上記のようなご意見を持つ保護者の方もいらっしゃることは認識しています。学力につきましては、「テスト」の形よりも、これから時代を生き抜く生徒達に、中学校3年間でどのような力を身に着けさせなければならないかを、我々教職員がしっかりとと考え共通理解を図り、学校として一丸となって進めていく必要があります。次年度へ向け、どのような形で進めていくかをしっかりと検証してまいります。

手帳・エナジードに関すること

<主なご意見>

- ・以前、エナジードの授業を参観する機会があったのですが、どんな意味があるのか、どんな良いことがあるのか、正直なところ良く分からなかったです。
- ・手帳やエナジードなど新しいことに取り組む意欲は伝わるが、生徒たちがうまく活用できていない気がする。もっと細かく指導して理解させた上で行わないともったいないと思う。(同様のご意見あり)
- ・手帳の活用ですが、1年時全く使わないので、終わりました。受験に向けて計画を立てて学習するのが一番大切なのは分かるのですが、強制的にスケジュールを立てることを学校でも家庭でも確認する、ということをしないと全くやらない。手帳代だけを支払って無駄にしているだけになっているのが現状です。今年度のうちに習慣づけできるように対策をしていただきたいです。計画を立てる、達成度はどのくらいか?今現状では、無関心の状態です。

- ・手帳のおかげで先生に気持ちを伝える事が出来ます。先生は大変かと思いますが今後とも見ていただけると子供の励みになります。宜しくお願ひ致します。
- ・1年の時は手帳と日記の提出があり先生に言葉で言えない事を書いてました。2年になってからは提出がない為困っていることを抱えているようです。先生方は忙しいのは承知しています。もし可能なら見て頂き声を拾って頂けたらなと思います。

<学校より>

ご指摘のとおり、手帳やエナジードなど新しいことに取組んでいますが、十分な活用に繋がっていない生徒も見られます。生徒たちに、それを行う目的、どのような力が身につくかなど、学び方を含めしっかり理解させる必要があります。引き続き、二中独自の取組の成果が表れるよう、手立てを講じてまいります。

体育祭にすること

<主なご意見>

- ・体育祭の開催ありがとうございます。今年度も天気に恵まれ、子どもたちの頑張る姿を見ることが出来とても嬉しく思います。今年は風が強く砂埃が開催中何度もおき、子どもたちも観客も大変でした。可能であれば水まきをしたり対策をしてもらえたとと思います。
- ・生徒が自主的に仲間の応援をしていたことがとても印象的でした。放送も元気で良かったです！子供は赤組が負けたけど楽しかったと言っていました。自主的な活動は先生方の労力が大変かと思いますが、今後も取り組んでいただきたいと強く感じました。ありがとうございました。
- ・今年の体育祭ではクラスリレーが全員ではなかったのが残念でした。クラスの中でも走らない子の方が少数と聞き、やはり全員で取り組む所を見たいと思いました。熱中症対策等あるかと思いますが、走る距離を短くするなど他の方法を生徒たちと検討して頂けたらと思います。生徒達の応援が盛り上がる姿は見ていて眩しかったです。また日々お忙しい中、準備から当日まで先生方も熱心にサポートしてもらいとても感謝しております。（同様のご意見あり）
- ・選抜リレーのように出来る人だけの偏った教育より、出来ない人も頑張れる教育が欲しいです。
- ・体育祭で、生徒一人一人が主体的に取り組む姿が印象的であった。しかし、団体競技で準備が整っていない中開始され、他クラスが跳んでいる中、跳べていないクラスがあった。教師の確認はあったのだろうか。他クラスの担任は、自分のクラスにしか視野に入っていないことは明らかであった。担任がそばにつけないクラスへの配慮が欲しい場面であり、残念な思い出となった生徒が出たことを教訓にして欲しい。
- ・なぜ、今年度の体育祭はお弁当だったのか教えてください。

<学校より>

体育祭では、多くの保護者の方にご来校いただき、生徒の頑張る姿を見ていただいたこと、本当に感謝いたします。また、当日は強風のため砂ぼこり等ご迷惑をおかけしました。次年度も同様な場合は、何らかの対策を講じる必要があると考えます。

また、体育祭に関しまして、上記のご意見を含め、複数のご意見をいただきました。体育祭に関しましては、教職員からもアンケートを取っておりますので、今年度の反省を踏まえた上で来年度、考えたいと思います。

体育祭当日にお弁当をお願いいたしましたのは、給食の年間の食数との調整もあったため、平日行う体育祭で調整させていただきました。来年度については未定です。よろしくお願ひいたします。

○熱中症に関するご意見

<主なご意見>

- ・6月からの厳しい暑さ対策として体操服登校を取り入れてくださり有り難いです。学校での熱中症事故等もあり、また暑さの中で体調が悪くなってしまう子もいると聞き(トイレで嘔吐していてしばらく戻ってこない等)、そういう場合はすぐに様子を見に行って頂けるようお願いいたします。(他体操服登校で良かったとのご意見あり)
- ・夏の部活動を熱中症アラートが出ているときは控えるような対応をしてほしい。(同様にアラート発令時の体育の授業や部活動の活動に関するご意見複数あり)
- ・急に暑さが増してきました。学校の行き帰り(家がかなり遠いので)にクールスポットがあると子どもたちも涼んでから登下校することができると思う。(コンビニ、ユニディ、スーパーなど)検討をお願いします。また、水筒への補給が出来るように冷水機の設置、授業中のネッククーラーの使用許可もお願いしたい。

<学校より>

近年の異常気象ともいえる厳しい暑さは、生徒達の活動に大きな影響を及ぼしています。本校では生徒の命を守ることを最優先に熱中症対策を講じています。ご意見にもあります通り、体操服による登下校、登下校時のハンディファンやネッククーラーの使用、水筒への補充用としてペットボトル飲料の持参など、柔軟に対応しているところです。

運動及び部活動につきましては、学校ホームページに掲載しておりますが、まず、管理職・体育科教員・部活顧問等が校庭や体育館の暑さ指数を定期的に確認します。判断の基準は千葉県や市川市のガイドラインに則り、暑さ指数（WGBT）31°C以上で運動は中止としています。また、ガイドラインでは暑さ指数によって対応が分かれていますが、生徒の健康に被害が及ぶと判断した場合は、すぐに運動を中止いたします。暑さ指数はあくまで目安のため、熱中症対策としましては、運動量の調整、休憩時間の確保、積極的な水分補給などを心掛け、十分注意してまいります。

クールスポットにつきましては、相手のあることなので、学校としてお答えできませんが、学校ができる熱中症対策をしっかり考えてまいります。

学校生活全般に関するご意見

<主なご意見>

- ・部活の時間が長すぎるので、生活が部活一辺倒になり、週末に色々な経験をさせてあげられない。朝練の日を少なくしたり、土日どちらか一日のみにするなどしてほしい。
- ・子どもに手帳が与えられているなら、お便りやテスト関連の連絡はウェブ配信を基本としていただきたいです。子どもが紙を持ち帰らないので、保護者に直接連絡を頂けた方が、学校活動の理解や我が子のサポートをすることができます。
- ・授業や行事等で使うものや必要なものの連絡が前日にあるといった家庭の準備への配慮が足りないので、前日直前に突如通知するのを改善して欲しいです。
- ・白百合学級が該当しない質問があります。選択肢を加えて欲しい。体育祭、白百合は蚊帳の外だなと親は思ってしまいました。子供は楽しそうでしたが。白百合種目も普通級の子供が盛り上がるのは先生の場面だけ。やり方は普通級の子のために変えるべき。色んな人を受けとめる強さを持った子が増えますように！！
- ・SDGsのごり押しは止めてください。

- ・子供の学習に対する意欲が低く、心配もありますが、学校は楽しく通っています。いつもありがとうございます（同様に、楽しく学校に通っているというご意見あり）
- ・席替えや体育などで2人組を作るとき、また、単元テストが立て続けにある時期にストレスを感じているようです。とはいえ、特にトラブルもなく毎日元気に通えているのは先生方のご指導、見守りのおかげです。いつもありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。
- ・二中の先生方には、日々とてもお世話になっています。我が子は、教科担任の先生のおかげで、興味を持って授業を受け、その教科が好きになったそうです。
- ・1・2年生の頃は二中の何事にも主体性、という方針に親子とも慣れませんでしたが（子どもは主体性を自由と勘違い）、3年生になり理解できたようで少し計画立て生活が出来るようになった気がします
- ・特に二中を体現している体育祭は、進学を検討している小学生やその保護者に是非観てほしいと申しておりました。ただ調べ学習の授業が多かったので、調べ学習と通常の授業のメリハリがあれば良いのにと思いました。
- ・全てにおいて、できる子は与えられたものを活かせると思いますが、活用できていない子供のフォローをお願いできたらと思います。

<学校より>

今回の評価におきまして、学校の取組や教職員への感謝のご意見も多くいただきました。ありがとうございました。

また、その他の主なご意見については、「給食について」、「修学旅行について」、「学校の施設・設備について」、「教職員の指導・対応について」、「生徒指導に関するここと」等でした。

特に、「教職員の指導・対応」につきましては、いただいたご意見を真摯に受け止め、教職員一人一人が当事者意識を持ち改善に努めてまいります。

第二中学校の生徒一人一人が、安心して過ごせる学校、保護者の方々がお子様を安心して通わせることのできる学校、そして地域の方々が応援したくなる学校を目指し、教職員一丸となって教育活動に取組んでまいります。

合わせて教職員が安心して教育活動に打ち込める教育環境を整備し、お子様方一人一人にしっかりと向き合えるよう学校経営を進めてまいります。

引き続き、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

5 学校運営協議会より

○アンケートの回収率について

(委員より)

- ・回収率が約64%であるが、アンケートに回答しない理由はどんなことが考えられるのか。また、学年による回収率の違いはあるのか。

(学校より)

- ・様々な理由が考えられるが、学校の教育活動が保護者にはまだまだ見えにくい（特に1年生の保護者は入学してすぐの6月にアンケートを実施するため、二中独自の取り組みに対しては回答しにくい）、学校に対する信頼、教育に対する関心が高くない方も一定数いることなどが考えられる。学年による回収率の違いは確認はしていないため、この場では不明である。

○質問8の地域との関わりに対しての保護者と生徒の結果の乖離について

(委員より)

- ・保護者の肯定的な回答が86%、生徒が43%となっており、考えられる理由は何か。

(委員より)

- ・生徒が「地域の人と学ぶ」ことを意識していないのではないか。

(学校より)

- ・この地域は見守り運動等、小学校の時から地域と連携した取組を行っている。学校運営協議会等を含め、地域学校協働活動推進員の方もいろいろな活動を行っている。したがって、保護者からは「地域とともに子どもを育てる」といったことがある程度認知されている。生徒への質問が「地域の方とともに学ぶ機会があるのか」となっており、実際に中学生が地域の方と授業で何か一緒にに行う機会はほとんどないためこのような結果となっていると推察できる。

○学校評価の公表の仕方及び評価結果のフィードバックについて

(委員より)

- ・評価結果についての学校の説明があるが、重要な部分等について枠で括るとか太字にするなど、分かりやすくしてほしい。また、学校の説明文では、「こう取組んでいきます」「推進していきます」などの文言があるが、フィードバックはされるのか。

(学校より)

- ・承知した。フィードバックについては、その取組の進捗や、結果等について方法を考えたい。

○タブレットについて

(委員より)

- ・家庭でのタブレットの活用をどのように進めているのか。

(学校より)

- ・特に具体的に「これをやる」という指示は出していない。家庭での活用については課題である。学校では授業での活用は多い。ただ使えばいいというものではないので、有効に活用できるようにしていきたい。

○単元テストについて

(委員より)

- ・保護者も約7割、生徒の約8割が肯定的な回答。自由意見の中に、多くの方が定期テストに戻してほしいという意見があると書いてあるが、どう読み取ればいいのか。

- ・全国学力学習状況調査の結果と単元テストの因果関係は。

(学校より)

- ・単元テストについては、まだ課題はあると捉えている。「学習習慣が身につかない」「高校に行ったら苦労するのでは」など多くのご意見をいただいている。ただ、大切なのは、これから時代を生きる生徒にどのような力をつけさせたいかだと思う。また、全国学力学習状況調査の結果と単元テストの関連だが、学力の向上には様々な要因が考えられるため、単元テストが直接全国学力学習状況調査の結果に反映しているかは検証できない。来月から来年度の教育課程を決めていく「教育課程検討委員会」を実施していく。また、先生方にも単元テストを含めた二中の取組について考えてもらう。生徒や教師にとってよりよいものにするため、柔軟に考えていきたい。

(委員より)

- ・様々な取組みについて決定する前に学校運営協議会に提示してほしい。

(学校より)

- ・承知した。